



園児が豆まき「福は内」

恒例の黒子まち・節分祭

1月29日、黒子の千妙寺^{せんみょうじ}で、『黒子まち・節分祭』が行われました。主催したのは、黒子まち・節分祭実行委員会。戦後途絶えていた伝統行事を、地域の活性化や文化継承などを目的として再興したもので、今年で9回目の開催となります。暖かな日差しに恵まれたこの日、物産展やフリーマーケット

なども開かれた境内は、家族連れなどで大賑わい。無病息災を願う護摩祈祷が行われた後、市立関城幼稚園の園児や年男などが、「福は内、鬼は外」の声とともに豆をまき始めると、少しでも多くの福を招き入れようとする人たちが、競いあうようにその豆を受けていました。

また、アトラクションとして、和太鼓の演奏や園児たちによる『よさこいソーラン踊り』などが披露され、訪れた人たちを楽しませました。

ふるさとへの思いを大いに語る

わがまち筑西 語るベコンクール



1月24日、下館商工会議所による創立50周年記念事業『私の主張 第3回わがまち筑西 語るベコンクール』が、市コミュニティプラザで開催されました。筑西を愛する発表者6人が『明日の筑西を考える』というテーマに沿い、市の将来像やまちづくりなどについて熱く主張。最優秀賞には、常陸秋ソバや酒米『五百万石』の生産・流通を通じて感じた情報発信の重要性などを説いた、川田誠一^{かわた せいいち}さん(56歳・西方^{にしほう})が選ばれました。

針供養祭り

あわしま
金井町の淡島神社



2月8日、金井町自治会により恒例の針供養祭が開かれました。この祭は、日ごろ使っている針に感謝し、折れたり使い古した針を柔らかい豆腐などに刺して供養したり、裁縫等の上達を願う祭りで江戸時代初期からはじまりました。祭りに参加した武井こと(大町)さんは「以前は、和裁学校の着物姿の生徒さんたちが国道50号から神社まで列をつくるほどでした」と昔を懐かしんでいました。

■松本哲男展〔併催：板谷波山と近現代の陶芸〕

前期3月26日（日）まで

後期3月28日（火）～5月7日（日）まで 月曜休館

佐野市立吉澤記念美術館〔佐野市 TEL0283(86)2008〕

入場料＝一般500円 高大生300円 小中生100円

■歴史浪漫 源平の時代展

3月21日（祝）まで ※3月6日（月）は休館

茨城県近代美術館〔水戸市 TEL029(243)5111〕

入場料＝一般830円 高大生580円 小中生350円

■特別展 浅原コレクション 日本人形の美と幻想

3月29日（水）まで

茨城県立歴史館〔水戸市 TEL029(225)4425〕

入場料＝一般580円 高大生300円 小中生150円

同時開催＝一橋徳川家のひなまつり

■人間の未来へ ダークサイドからの逃走

5月7日（日）まで 月曜休館

水戸芸術館〔水戸市 TEL029(227)8111〕

入場料＝一般800円 中学生以下・65歳以上無料

■中丸三千繪 ソプラノ・リサイタル

4月22日（土）午後5時開演

結城市民文化センターアクロス〔結城市 TEL(33)2001〕

入場料＝S席7,000円 A席6,000円

（学生は各1,000円引）

■五木ひろし スペシャルコンサート 2006

5月15日（月）

①午後2時30分開演 ②午後6時30分開演

茨城県立県民文化センター〔水戸市 TEL029(241)1166〕

入場料＝S席7,000円

■ジョージ・ウィンストン ジャパン・ツアー 2006

6月4日（日）午後2時開演

栃木県総合文化センター〔宇都宮市 TEL028(643)1010〕

入場料＝全席指定6,000円

わが家のアイドル

1歳のお誕生おめでとう



白井 康聖くん
3月2日生（樋口）



大畑 愛実ちゃん
3月3日生（稲荷）



中山 信繁くん
3月3日生（岡芹）



板谷 花音ちゃん
3月5日生（南町）



上村 依楓ちゃん
3月5日生（市野辺）



杉山 美咲ちゃん
3月6日生（小栗）



川野 みづ紀ちゃん
3月7日生（女方）



菅原 大夢くん
3月9日生（玉戸）



古橋 勇征くん
3月9日生（二本木）



菊次 萌花ちゃん
3月12日生（布川）



堀江 菜々美ちゃん
3月12日生（榎生）



長須 湊くん
3月16日生（徳持）



福島 万尋ちゃん
3月16日生（清水）



栗野 絢心くん
3月18日生（藤ヶ谷）



高野 蒼大くん
3月18日生（みどり町）



西村 葵くん
3月19日生（押尾）



竹内 蓮くん
3月22日生（関本中）



田山 秦くん
3月23日生（玉戸）



菊池 裕美ちゃん
3月24日生（岡芹）



富田 弥生ちゃん
3月26日生（折本）



大塚 陸斗くん
3月28日生（栄町）



池田 蒼生くん
3月30日生（藤ヶ谷）



大島 颯弥華ちゃん
3月30日生（上平塚）



千葉 琢磨くん
3月30日生（下中山）



安藤 翼くん
3月31日生（市野辺）



海老澤 綾乃ちゃん
3月31日生（松原）

平成17年5月生まれのお子さんの写真を募集しています。写真の裏面に、
①お子さんの氏名・生年月日・性別、
②保護者の氏名・郵便番号・住所・電話番号を明記のうえ、3月31日（金）までに市広報聴課広報係へ。応募者多数の場合は抽選といたします。

6年生が描くわたしの夢、このまちの未来。

嘉田生崎小学校



おお たけ り ほ
大武 利帆

世界の誰もが知っているような美容師になりたい。障害のある人も誰もが住みよい福祉優先のまちにしたいな。



おお し ま り ょ う す け
大島 峻祐

看護師になって、病氣やけがをした人を看護してあげたい。筑西市全体を明るくて元気のあるまちにしたい。



つ る み ひ と み
鶴見 仁美

デザイナーになって自分のデザインした服をたくさんの人に着てほしい。明るくにぎやかなまちにしたいな。



あ お き た か し
青木 大志

柔道選手になって、オリンピックに出場できるようにになりたい。だけれども優しい心の持てるまちにしたい。



おお た け あ や か
大武 亜也伽

作家になって子どもから大人まで多くの人が楽しめる話を作りたい。緑いっぱいに住み心地良いまちにしたいな。



お じ ま と も き
小島 知貴

人のために働き、人に優しくできる国にしたい。日本はもちろん、他の国の人にも優しくできるまちにしたい。



お じ ま あ い り
小島 愛里

カウンセラーになっていろいろな人の心の悩みを聞き、一緒に解決してあげたい。元気になれるまちにしたいな。



た て の ま さ や
館野 政哉

研究者になって、世界が平和になるためのものを発明したい。笑顔がたくさんあふれる幸せなまちにしたい。



と や ま あ り さ
外山 亜理沙

絵本作家になって、世界中の人々に命の大切さを伝えたいな。心のきれいな人がたくさんいるまちにしたいな。



み ず き た つ や
水柿 達弥

パイロットになって世界中を飛び回り、家族を世界一周旅行に連れて行きたい。飛行場のあるまちにしたい。

長讃小学校

日ごろ暮らしの中で思っていることを投稿してください。匿名可。市広報広聴課へ。

おたより

歩き方を見直そう

筑西市の高齢化率は20・4%（平成17年7月現在）、5人に1人が65歳以上。高齢者が車いす依存、あるいは要介護状態に陥る主因は脳卒中、次いで転倒による骨折といわれています。

なぜ転倒が起きるのでしょいか。足が上がってないからです。前に出した足の爪先（つまさき）が上がっていけばつまづきは防げるのです。身体の筋肉の70%は脚に付いて脊柱、骨盤を支えています。坐って寄りかかる椅子生活などで姿勢も悪くなってきたりするように見受けませんが、姿勢や歩き方が悪いと上体を支えるに必要な脚の筋肉は衰えます。歩けば余分な脂肪を燃焼するので、生活習慣病の予防効果はありますが、ただ歩いているだけでは、筋力低下は防げません。いざ腰が落ち、膝（ひざ）が曲がり、摺（す）り足になつて転倒しがちになります。

今こそ、軽視されがちであった先人が自然に身につけてきた本来の歩き方「背筋を伸ばし、爪先上げ・踵（かかと）着地」を見習い、習慣付けることが必要です。

鳥生厚夫（藤ヶ谷）

無病息災を願い 辻集落で『火渉』

2月11日、辻集落の稲荷神社境内で市指定の無形民俗文化財『火渉』が行われました。薪や粗朶を人の背丈ほどに積み上げ、神饌を供えてから、修験者が四方から点火。十分に火が回ってから崩して、修験者に続き、子どもからお年寄りまで燃え残る薪の上を裸足で渡ります。本年もたくさんの人が訪れ無病息災を祈りました。



やまなか あやな 山中 亜弥奈さん (玉戸)

「いた病院には同じくらの年の子どもが何人もいて、仲良くなりました。先生や病院の友達と一緒に交番や消防署を見学したり、ご飯を食べに行ったりしたことが楽しかった。先生も看護師さんも優しく、勉強や遊びを教えてくれました。私も将来は看護師になって、病気の人の世話をしたいと思っています」。



ひと

「優しくしてくれた看護師のようになりたい」 『心に残る医療』体験記コンクール優秀賞

「賞をもらえるとは思っていなかったのですが、優秀賞になったと聞いてびっくりしました。すごくうれしいです」と笑顔で語ってくれたのは、第24回『心に残る医療』体験記コンクール（主催：日本医師会・読売新聞社）小学生の部で優秀賞に輝いた、大田小学校4年の山中亜弥奈さん。山中さんは、3年生の時に大腿骨の病気にかかり、その後、手術と半年以上におよぶ入院、車イスでの生活を体験しました。医師や

看護師、ともに入院していた子どもたちとのふれあいや、その中で感じたことなどを『病気になってわかったこと』と題して綴ったのが、受賞作品です。「まだ全力で走れないけれど、縄跳びもできるし、体育の時間も出られるようになりました。手術したのは3年生の夏休み。少し怖かったけれど、手術が終わって1人で病室にいた時、看護師さんが一緒にトランプで遊んでくれて、うれしかったです。入院して